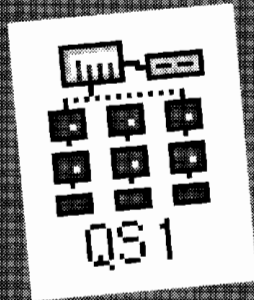


YAMAHA

QS1-MC

デジタルイコライザーコントロールソフトウェア



for Macintosh

ユーザーマニュアル

ヤマハ株式会社

ソフトウェアのご使用条件

ヤマハ株式会社

ヤマハ株式会社(以下、弊社といいます)は、提供するソフトウェア製品に関し、お客様に対してその使用を下記条項に基づき許諾し、お客様も下記条項をご同意の上ご使用いただくものとします。

1. 定義

本使用条件の対象となるソフトウェア製品(以下、本ソフトウェアといいます)とは、本製品に含まれるコンピュータープログラムをいいます。

2. 使用許諾

本ソフトウェアの著作権は弊社が有し、弊社は本使用条件に基づき、お客様に対して、日本国内における本ソフトウェアの譲渡不能かつ非独占の権利を許諾します。

3. 使用内容

- (a) お客様は、本ソフトウェアを本ソフトウェアに付属の取扱説明書に記載のコンピューターおよび関連機器の環境下においてのみ使用することができるものとします。
- (b) お客様は、本ソフトウェアをバックアップとして保有する場合に限り、複製することができます。
- (c) お客様は、本ソフトウェアについて、リバース・エンジニア、逆コンパイル、逆アセンブルまたはいかなる改変もしないものとし、それに起因する損害について弊社は一切の責任を負いません。

4. 保証

- (a) 弊社は、本ソフトウェアが付属の取扱説明書に従って実質的に作動せず、或いは本ソフトウェアが納められている媒体や印刷物に物理的な欠陥があった場合は、お買い上げ後1年以内に限り無償にてお取り替えいたします。但し、弊社がその欠陥を弊社の責に帰すべきものであると認めた場合に限りです。
- (b) 弊社は、本ソフトウェアの使用または使用不能によりお客様または第三者が被ったいかなる損害についても一切責任を負わないものとします。

5. 使用許諾の解除

お客様が本使用条件に定める条項のいずれかに違反した場合、弊社は本ソフトウェアの使用許諾を解除し、お客様のご使用を終了させることができます。その場合、お客様は本ソフトウェアおよびその複製物をお客様の負担にて速やかに返却していただくこととします。

弊社はその他の法的措置をとることもあります。

6. 管轄裁判所

本使用条件に係わる紛争は、弊社の本社所在地を管轄する裁判所をお客様合意の管轄裁判所として解決するものとします。

※Macintoshは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。

目次

はじめに	1
ごあいさつ	1
QSIとは?	1
特長	1
本ユーザーマニュアルについて	2
QSIについての注意	2
QSIパッケージの内容	2
コンピューターシステムの動作環境	2
プログラムディスクのバックアップ	2
第1章 基本操作	3
QSIに必要な環境	3
システムの接続	3
システムの設定	3
マッキントッシュの設定	4
QSIのインストール	4
QSIの起動	4
ダミーデバイス	6
デバイスが認識されない場合	6
QSIの終了	6
第2章 デバイス (デジタルイコライザー)	7
デバイスとは?	7
アドレスとは?	7
デバイスの追加	7
デバイスのセーブ	8
デバイスのクローズ	8
デバイスのオープン	8
デバイスのサーチ	8
デバイスのアップデート	8
デバイスデータのロード	9
デバイス情報	10
デバイスウインドウ	11
イコライザータイプ	12
最大ゲイン (Max Gain)	12
パラメーターリンク	12
バイパス	12
ハムキャンセル	12
第3章 Editメニュー	13
カット	13
コピー	13
ペースト	13
クリア	13
プリファレンス	14

第4章 ウィンドウ	16
デバイス/シーン.....	16
グラフィックイコライザー.....	16
パラメトリックイコライザー.....	18
Eq. Com.....	20
フィルター.....	21
周波数曲線.....	22
ユーティリティ.....	23
タイムコードイベント.....	24
第5章 プロジェクト	25
プロジェクトとは?.....	25
新しいプロジェクトの作成.....	25
プロジェクトへのシーンの追加.....	25
シーン名.....	26
シーンのエディット.....	26
シーン切り替えの実行.....	26
シーンの削除.....	26
プロジェクトのセーブ.....	26
プロジェクトのクローズ.....	26
プロジェクトのオープン.....	27
シーンアイコンの選択.....	27
シーンアイコンのカスタム化.....	27
第6章 バルクデータ	28
バルクデータの受信.....	28
バルクデータの送信.....	29
マスターセレクト.....	30
トラブルシューティング	31
用語集	33
付 録	35
キーボードでのショートカット.....	35
シーンアイコンのカスタム化.....	35
QS1データの送信.....	35
Confirmation Messages.....	36
Warning Messages.....	39
索 引	41

はじめに

ごあいさつ

このたびはヤマハQS1-MCデジタルイコライザーコントロールソフトウェアをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。QS1は、ヤマハサウンドシステムコントローラーソフトシリーズの一つで、大規模なサウンドシステムでも小型のシステムでも簡単にコントロールすることができます。インストールして使用する前に、本ユーザーマニュアルをよくお読みください。

QS1とは?

QS1-MCデジタルイコライザーコントローラーはマッキントッシュ用のアプリケーションで、マッキントッシュのデスクトップやラップトップのコンピューターからヤマハのデジタルイコライザーを制御します。QS1はヤマハ デジタルイコライザー-DEQ5、DEQ5E、YDG2030、YDP2006の各モデルをコントロールします。

QS1は31台のデジタルイコライザーのパラメーターを制御します。イコライザーはそれぞれ7つのグループに分けられ、各グループには31台まで入ります。QS1を走らせるコンピューターは理想的なリスニングポジションに置けるので、サウンドエンジニアは音をモニターしながら調整することができます。QS1プロジェクトによってイコライザーデータの管理が簡単になり、プロジェクトデータをディスクにセーブしたり、後で呼び出したりすることも可能です。データのセーブやロードは、接続機器すべてを対象にすることも、個別機器ごとに行うこともできます。

各プロジェクトには全部で100のシーンが入ります。シーンを使うと、アクティブなイコライザーすべてのシーンメモリーを一括して呼び出すことができます。各シーンには適当なアイコンを指定し、そのアイコンをダブルクリックすると、シーンが切り替わります。

ユーザーフレンドリーなQS1のGUI(グラフィカルユーザーインターフェース)を使用すると、イコライザーの本体上でコントロールを行っているような感覚で調整ができます。たとえば、スライダーやロータリーコントロールはマウスを使って動かし、ボタン類は画面上でクリックします。コマンドはプルダウンメニューから選びますが、ほとんどはキーボードから簡単に入力できるショートカットもあります。

接続イコライザーに対応して、グラフィックイコライザー、パラメトリックイコライザー、フィルターのウィンドウを同時に開けることができるので、複数のイコライザーの設定が簡単になります。カーブウィンドウでは、選択したイコライザーの総合周波数特性を表示し、EQ調整を目で見ることができません。

特長

- ヤマハデジタルイコライザーをステージ外からコンピューターでリモートコントロール
- ヤマハデジタルイコライザー-DEQ5、DEQ5E、YDG2030、YDP2006に使用
- 31台のイコライザーのパラメーターを画面上でコントロール
- データをディスクにセーブ、後で呼び出しが可能
- データのセーブ、ロードは接続全機器でも個別機器でも可能
- プロジェクトで簡単なデータ管理
- 各プロジェクトに最高100個のシーンを登録
- シーンアイコンをダブルクリックして、31台のイコライザーの指定プログラムを同時に呼び出し
- シーンに適当なアイコンを指定してわかりやすく表示
- 複数のイコライザーウィンドウを同時にオープン

- マウスを使ったGUIユーザーインターフェース
- 画面上のロータリーコントロールもマウスを使って調整
- プルダウンメニューでコマンド選択
- キーボード上のショートカットでコマンド入力

本ユーザーマニュアルについて

本ユーザーマニュアルは、お使いになる方々がマッキントッシュコンピュータの基本知識と、「ポイント」、「クリック」、「ダブルクリック」、「クローズボックス」、「サイズボックス」、「ドラッグ」といった用語の知識とをすでにお持ちであることを仮定して書かれています。このような用語に付いての詳細は、お手元のマッキントッシュユーザーズガイドをお読みください。

IFU485とデジタルイコライザーの取扱説明書も併せてお読みください。

QS1についての注意

FileメニューとEditメニューには次のようなコマンドが現れます：Page Setup, Print, Undo。これらはQS1内では作動しません。これは基本的なマッキントッシュのインターフェースの一部なので、使用、未使用にかかわらず表示されます。

パッケージの内容

QS1パッケージには次の品目が入っていますので、ご確認ください。

- オフィシャルユーザー登録カード、プログラムディスク (3.5インチ2HD)
- 本ユーザーマニュアル
- IFU485インターフェースユニット
- IFU485取扱説明書
- ACアダプターPA-1B

コンピューターシステムの動作環境

- マッキントッシュコンピュータ (CPU MC68030, MC68040)
- モニター (カラー、グレイスケール、モノクロームのいずれか)
- マッキントッシュシステム6以上 (32ビットクイックドロワー搭載)
- RAM空容量最低2MB
- ハードディスク空容量最低5MB

プログラムディスクのバックアップ

QS1をインストールする前に、オリジナルのQS1プログラムディスクをバックアップし、このバックアップディスクを安全な場所に保管してください。ディスクのコピーについては、マッキントッシュの取扱説明書をお読みください。

第1章 基本操作

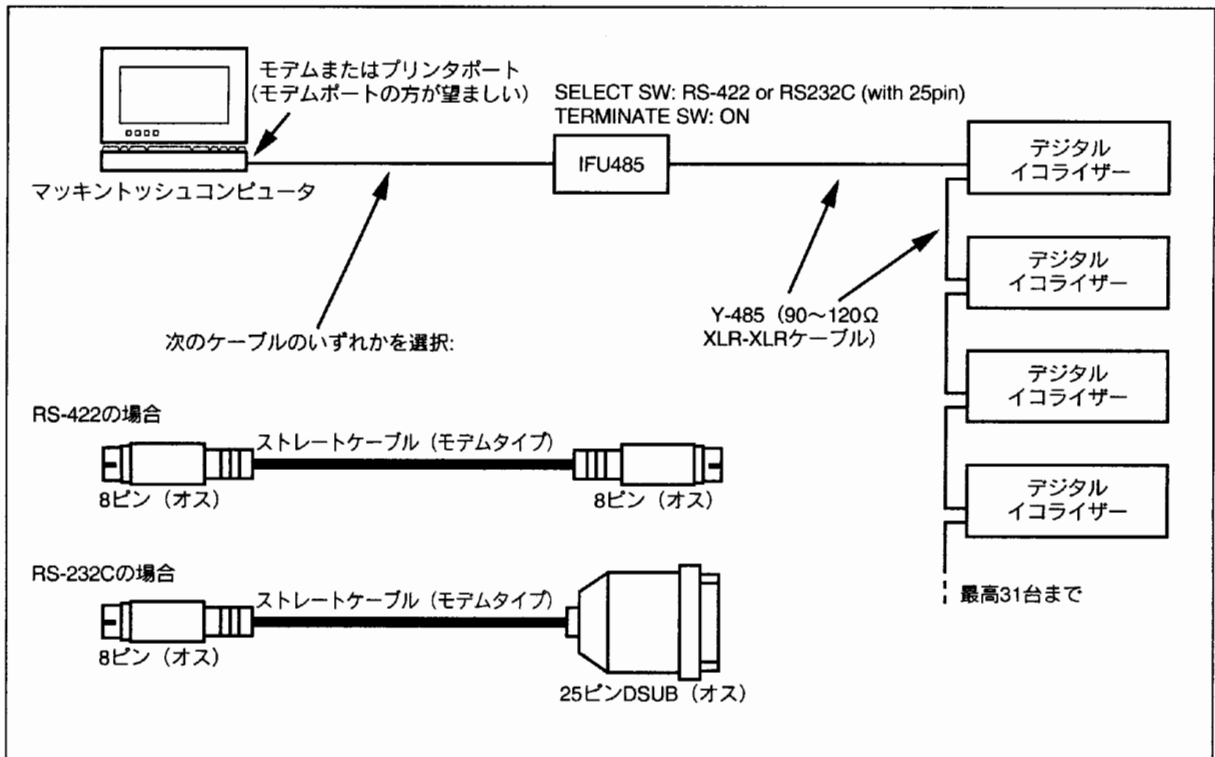
本章ではQS1システムのセットアップ方法、QS1ソフトウェアのインストールと起動について説明します。

QS1に必要な環境

- マッキントッシュコンピュータ (2ページ「コンピューターシステムの動作環境」をお読みください。)
- 8ピンー8ピンミニDINストレートケーブル、または8ピンー25ピンDSUBケーブル(プリンタータイプではなく、モデムタイプ)
- ヤマハIFU485インターフェースユニット
- XLRーXLR AES/EBUデジタル・オーディオ・ケーブル(推奨90~120Ω)
- ヤマハデジタルイコライザー最低1台 (DEQ5、DEQ5E、YDG2030、YDP2006)

システムの接続

次の図は基本的なQS1システムの設定方法を示しています。



システムの設定

以下の基本設定に従ってください。詳細は、IFU485およびデジタルイコライザーの取扱説明書を参照してください。

- IFU485のSELECTスイッチをRS-422に設定します。(25ピンタイプの場合はRS-232C側に設定します。)
- IFU485がネットワークの末端の機器である場合は、TERMINATEスイッチをONにして終端します。

デバイス (デジタルイコライザー、DEQ5、DEQ5E、YDG2030、YDP2006) の設定

- DEQ5, DEQ5E, YDG2030, YDP2006 ;
Utility RS485 NETWORKメニューでボーレートを設定します (14ページ「プレファレンス」参照のこと)。ローカルアドレスナンバーも同じメニューで設定できます。
RS485 COMM.I/OメニューでI/O CommをALLに設定します。
- DEQ5, YDG2030, YDP2006 ;
リモートアドレスが使われていないアドレスに設定します。(例7.31等)
リモートアドレスを*マークに設定することは避けてください。
- DEQ5 ; リアパネルのMEMORY PROTECTスイッチをOFFにします。
- DEQ5E ; 最初にDEQ5あるいはQS1を立ち上げ、次にユーティリティ・ウィンドウでリモートアドレスを設定します。
各機器に固有のローカルアドレスナンバーをアサイン (割り当て) します (7ページ「アドレスとは?」をお読みください)。

マッキントッシュの設定

- モニターコントロールパネルでカラーの256色を設定します。
32000色を設定しますとQS1のウィンドウ画面は正しく表示されないことがあります。
- マッキントッシュDuoシリーズ230、250あるいは270Cで内蔵モデム、モデムソフトが使われているときは、コントロールパネルのPower Bookセットアップで、モデムを“標準”に設定しExpressモデムを“切”に設定します。マッキントッシュDuoシステムが使われているときはDuo Dock内での使用をおすすめします。
- パワーブック140以降で内蔵型のモデムを使っている場合はコントロールパネルを開いて、(またはポータブル)内蔵モデムを外付けモデムに切り換えてご使用ください。

QS1のインストール

次に進む前に、2ページ「プログラムディスクのバックアップ」をお読みください。

インストールにはバックアップしたコピーディスクをご使用ください。

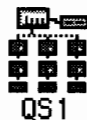
1. マッキントッシュコンピューターの電源を入れます。
2. QS1プログラムディスクのバックアップコピーをディスクドライブに挿入します。
3. マッキントッシュのハードディスク上で新しいフォルダを作成して、QS1というタイトルをつけます。
4. QS1のディスクの内容をフォルダにコピーします。

これでインストールは完了しました。ディスクを取り出して安全な場所に保管してください。

QS1の起動

QS1を起動する前に、イコライザー全機器とIFU485の電源を入れます。

QS1のアイコンをダブルクリックすると起動します。



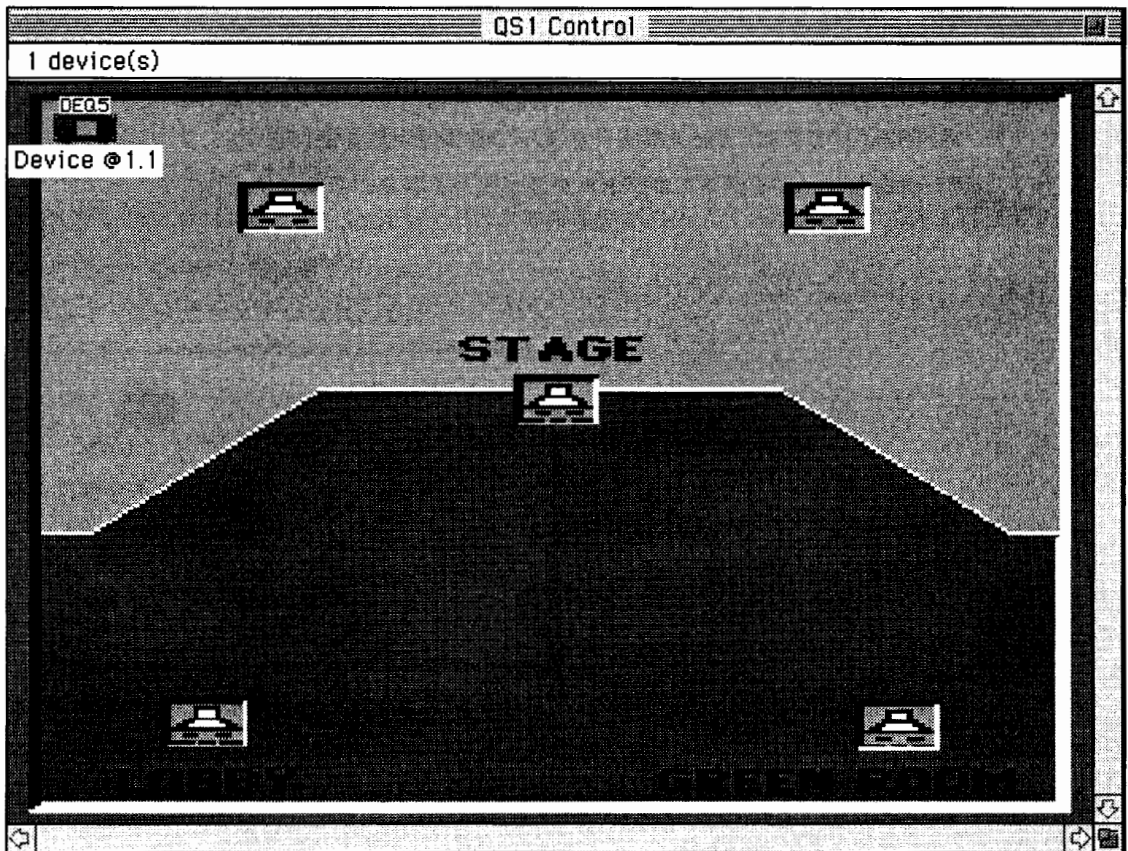
QSIが起動すると、次のタイトルウィンドウが表示されます。



起動はコントロールファイルあるいはプロジェクトファイルをダブルクリックしたり、QSIアイコンにコントロールファイルあるいはプロジェクトファイルをドラック&ドロップしてもできます。

マスターがHostのときは比較的高速にプロジェクトファイルを開くことができます。

QSIは起動時に接続されているデバイスを確認します。接続されているアクティブなデバイスのアイコンがデバイスウィンドウに表示されます。次のデバイスウィンドウは、DEQ5がアクティブになっていることを示しています。アクティブでないデバイスの場合には黒色かかってアイコンが表示されます。



ダミーデバイス

アクティブなデバイスが見つからない場合は、ダミーデバイスを設定することができます。ダミーデバイスのコントロールはできませんが、QS1を完全にスタートさせ、イコライザーウィンドウを見たり、現在のプロジェクトに保存されているシーンデータを確認することができます。明日に大きなコンサートを控え、家にあるマッキントッシュでプロジェクトデータを確認したい場合などに、ダミーデバイスの設定は大変役に立ちます。

注意: Master SelectがDeviceに設定されていると、ダミーデバイスを設定する選択肢は現れません。

デバイスが認識されない場合

QS1が接続されているデジタルイコライザーを検知しない場合は次の対策を行ってください。

- 全機器に電源が入っていることを確認
- 接続ケーブルを確認
- IFU485の設定を確認
- イコライザーの設定を確認
- QS1を再起動

注意: QS1の作動中は、決してIFU485やイコライザーの電源を切らないでください。QS1がクラッシュする恐れがあります。途中で接続されたケーブルをはずしたり、機器の電源を切るなどして正常に動かなくなった場合は、アンプのボリュームを最小にし、すべての電源を1度切って

1) デジタルイコライザー 2) マッキントッシュ 3) IFU485 4) アンプ

の順番で電源を入れ、再びQS1を立ち上げ直してください。IFU485の電源は必ず最後に立ち上げてください。

QS1の終了

QS1を終了するには、FileメニューでQuit (コマンド+Q) を選びます。

データをセーブするダイアログボックスが現れる場合があります。

第2章 デバイス (デジタルイコライザー)

本章ではデバイス、Optionメニューのコマンドについて説明します。

デバイスとは?

デバイスとはQS1で使用できるデジタルイコライザーのことを指します。

QS1は次のヤマハデジタルイコライザーに使用できます。

・ DEQ5 ・ DEQ5E ・ YDG2030 ・ YDP2006

デバイスデータはデバイスファイルに保存します。接続機器が1台か2台の場合は、デバイスファイルをデータ保存に使えますが、たくさんのデバイスを使った大がかりなシステムでは、データをプロジェクトとして処理することをおすすめします。一つのプロジェクトに対して、全機器のデータを一つのプロジェクトファイルに保存します。

アドレスとは?

ネットワーク上の各デバイスには、固有のアドレスナンバーをアサインする必要があります。アドレスは、グループIDとデバイスIDの2種類から構成されています。たとえば、@1.5は、グループ1のデバイス5を指しています。

注意: アドレスは重複しないようにしてください。QS1はアドレスが重複していても検知しません。複数のアドレスが重複していると、予期しない動作が起こることになります。

また各デバイスのリモートアドレスは使用しないアドレスをアサインしてください。

ブロードキャストアドレスなどは誤動作の原因になります。

デバイスの追加

Newコマンドを使って、デバイスウインドウに新しいデバイスを追加することができます。通常は、QS1起動時にアクティブデバイスを自動的に追加するか、OptionメニューのSearchコマンドで追加します。試験用に、または現場以外でデバイスやプロジェクトのセットアップをするために、ダミーデバイスを追加することもできます。

注意: プレファレンスでMaster Selectがデバイスのときはダミーデバイスを追加することはできません。

1. FileメニューでNewを選びます。

次のダイアログボックスが現れます。

Device Information: 選択したデバイスのアイコンを表示します。

Model: 上下の矢印をクリックして、モデル名を選びます。

Group ID: 上下の矢印をクリックして、グループIDナンバーを設定します。

Device ID: 上下の矢印をクリックして、デバイスIDナンバーを設定します。グループIDとデバイスIDは、使用可能な次のアドレスに自動的に設定されます。

Revert: これをクリックすると、グループIDとデバイスIDが以前の値に戻ります。

Name：16文字までのタイトルを入力します。デバイス名がデバイスウインドウの該当するアイコンの下に表示されます。(デバイスウインドウでも名前をアサインすることができます。)

2. OKを押して、新しいデバイスをデバイスウインドウに追加します。

デバイスのセーブ

1. デバイスをセーブするには、デバイスウインドウでセーブしたいデバイスを選びます。

選んだデバイスのアイコンの下にあるデバイス名が強調表示されます。

2. FileメニューでSaveを選びます。

デバイスファイルがQS1と同じフォルダにセーブされます。

デバイスのクローズ

1. デバイスをクローズするには、デバイスウインドウでそのデバイスを選びます。

選んだデバイスのアイコンの下にあるデバイス名が強調表示されます。

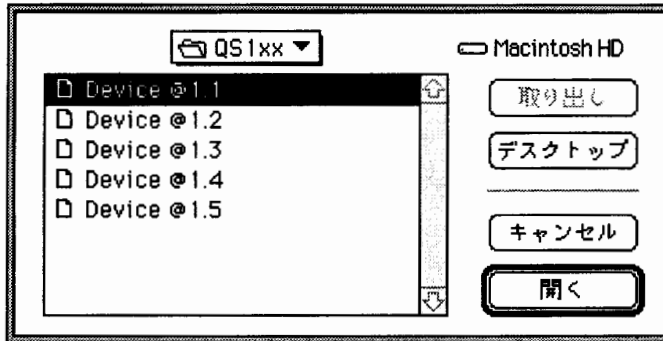
2. FileメニューでCloseを選びます。

データをセーブするダイアログボックスが現れる場合があります。

デバイスのオープン

1. デバイスをオープンするには、FileメニューでOpen (コマンド+O)を選びます。

ダイアログボックスが現れます。



2. デバイスを選んで開くをクリックします。

デバイスのサーチ

Searchコマンドを実行すると、QS1は現在アクティブなデバイスがネットワークにあるかどうかを調べます。

1. OptionメニューのSearchを選んで実行します。

デバイスウインドウに、アクティブデバイスのアイコンが現れます。

デバイスのアップデート

Updateコマンドを実行すると、QS1は全アクティブデバイスの設定を確認し、データをアップデートします。これは、Preferences Master SelectがHostに設定されており、EQの調整を機器本体で行っているときに使います。この場合、QS1は自動的にアップデートされず、デバイスデータとQS1のデータが一致しないこととなります。このため、このコマンドを使ってQS1のデータをアップデートします。

通常、Master SelectがHostのときはデバイス機器本体は操作しないでください。操作したままにしておくとHostと機器のデータが一致しません。

1. OptionメニューのUpdateを選んで、アップデートを実行します。

デバイスデータのロード

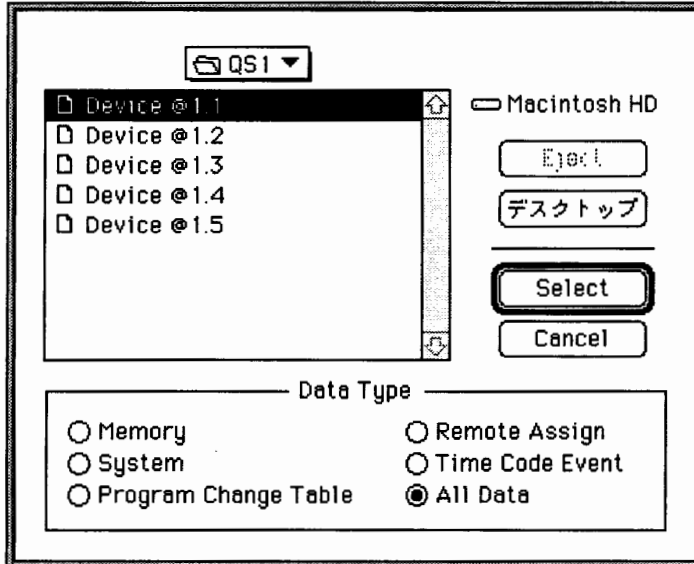
Loadコマンドを使って、個々のデバイスファイルからデータをロードします。

1. データをロードしたいデバイスをデバイスウィンドウで選びます。

選んだデバイスのアイコンの下にあるデバイス名が強調表示されます。

2. FileメニューでLoadを選びます。

次のダイアログボックスが現れます。



3. デバイスを選びます。

4. データタイプを選択します。

次のデータタイプから選びます。

Memory : 全メモリー (プログラム)

System : システムデータ

Program Change Table : プログラムチェンジテーブルデータ

Remote Assign : リモートアサインデータ

Time Code Event : タイムコードイベントリストデータ

All Data : 上記すべてのデータ

5. Selectをクリックします。

指定したデータを、選んだデバイスへロードします。Master SelectがHostの場合にはロードと同時にデバイスに送信します。

注意: 異なるモデル間でのデバイスデータのやり取りはできません。たとえば、DEQ5のデータをYDG2030にロードすることはできません。

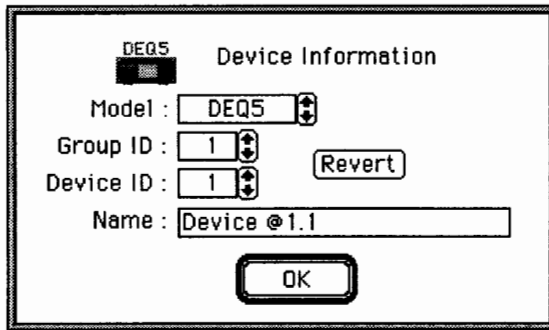
デバイス情報

情報ダイアログボックスでは、選んだデバイスの情報を表示します。

1. デバイスウィンドウでデバイスを選択し、FileメニューでInformation (コマンド+I) を選びます。

注意: 情報ダイアログボックスは、選んだデバイスのエディット中、つまりイコライザーウィンドウが開いているときには使えません。

次のダイアログボックスが現れます。



Device: 選んだデバイスのアイコンを表示します。

Model: モデル名を表示します。

Group ID: グループIDナンバーを表示します。

Device ID: デバイスIDナンバーを表示します。

Revert: これをクリックすると、グループIDとデバイスIDが以前の値に戻ります。

Name: デバイス名を表示します。16文字までのタイトルを入力できます。デバイス名は、デバイスウィンドウの該当するアイコンの下にも表示されます。デバイスに名前をつけると、各デバイスの判別が簡単になります。たとえば、Stage Left, Side Fill Right, Drum Monなどと名前をつけることができます。

注意: アクティブデバイスのモデル、グループID、デバイスIDのパラメーターは変更しないでください。変更できるのは、ダミーデバイスを選択しているときのみです。ただし、Nameパラメーターは、アクティブ、ダミー両デバイスに使用できます。

デバイスウインドウ

WindowメニューのDeviceコマンドとSceneコマンドを使って、デバイスウインドウ、シーンウインドウを選択します。これは該当するウインドウ上でクリックするのと同じことです。一度に一つのウインドウのみがアクティブとなり、アクティブとなっているウインドウの名前がグレイで表示されます。

デバイスウインドウの表示

デバイスウインドウがアクティブになっているとき、表示をアイコンにするかリストにするかを設定することができます。

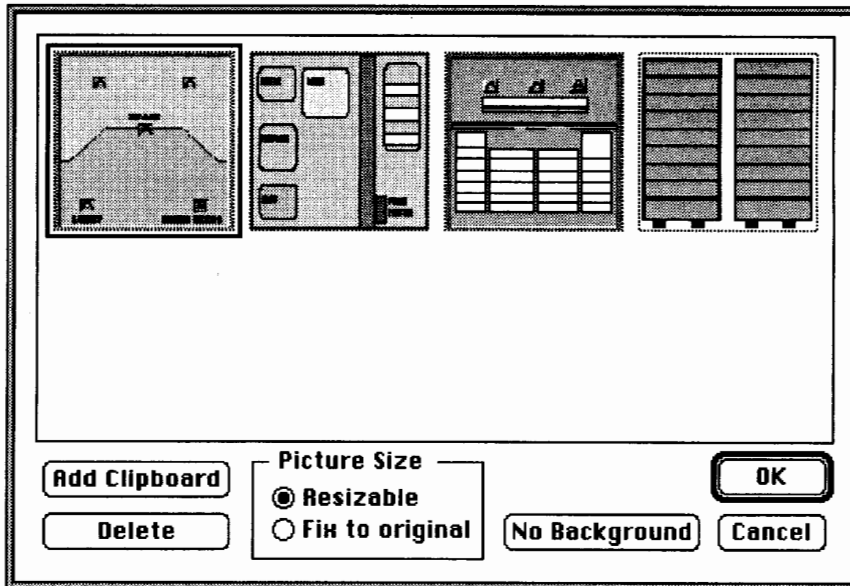
1. ViewメニューでIconかListを選びます。

アイコン表示のバックグラウンド

デバイスウインドウがアイコン表示のとき、そのバックグラウンドを変更することができます。

1. ViewメニューでBackground (コマンド+B)を選んで、バックグラウンドを変更します。

次のダイアログボックスが出ます。



2. 選びたいバックグラウンドをクリックします。
3. OKボタンをクリックします。

バックグラウンドのダイアログボックスには次の選択肢があります。

Add Clipboard : ご自分独自の絵をバックグラウンドウインドウに追加します。マッキントッシュPICTファイルフォーマットをサポートするドローイングやペインティングアプリケーションを使って、独自のバックグラウンドを作ることができます。このアプリケーションで、バックグラウンドに使用したい絵を選び、クリップボードにコピー(コマンド+C)します。次にQSIに切り換え、バックグラウンドウインドウを開け、Add Clipboardでクリックすると、その絵が現れます。PICTフォーマットをサポートしていないアプリケーションもあるので、とにかく試してみることです。

Delete : バックグラウンドを削除します。削除したいバックグラウンドを選んで、Deleteでクリックしてください。

Picture Size : バックグラウンドの絵の大きさを変更できるようにするかどうかを決めます。Resizableを選ぶと、デバイスウインドウに入るように自動的にサイズが変わります。Fix to Originalを選ぶと、デバイスウインドウ自体のサイズに関係なく、バックグラウンドのサイズは元のまま変わりません。

No Background : バックグラウンドを表示しません。

イコライザータイプ

Equalizer Typeコマンドを使って、デバイスモードをグラフィックかパラメトリックに設定します。

1. デバイスウインドウでデバイスアイコンを選びます。

注意: イコライザータイプ機能は、YDG2030とYDP2006では使えません。

2. OptionメニューでEqualizer Typeを選びます。

サブメニューが現れます。現在のモード名の前にチェックの記号が表示されます。

3. サブメニューでGraphicかParametricを選びます。

ダイアログボックスが現れます。

4. OKをクリックして続けるか、Cancelをクリックします。

最大ゲイン (Max Gain)

Max Gainコマンドを使って、デバイス(デジタルイコライザー)のゲインを6dBか12dBに設定します。

1. デバイスウインドウでデバイスアイコンを選びます。

注意: 最大ゲイン機能は、DEQ5とDEQ5Eでは使えません。

2. OptionメニューでMax Gainを選びます。

サブメニューが現れます。

3. サブメニューで6dBか12dBを選びます。

ダイアログボックスが現れます。

4. OKをクリックして続けるか、Cancelをクリックします。

パラメーターリンク

Parameter Linkingコマンドを使って、パラメーターリンクをオン/オフします。

1. デバイスウインドウでデバイスアイコンを選びます。

2. OptionメニューでParameter Linkingを選びます。

パラメーターリンクをオンにすると、プルダウンメニューのコマンド名の前にチェックの表示が現れます。パラメーターリンクは、イコライザーウインドウ、フィルターウインドウでも設定できます。

注意: パラメーターリンク機能は、YDP2006のモノモードでは使えません。

バイパス

Bypassコマンドでバイパスをオン/オフします。

1. デバイスウインドウでデバイスアイコンを選びます。

2. OptionメニューでBypassを選びます。

バイパスをオンにすると、プルダウンメニューのコマンド名の前にチェックの表示が現れます。バイパスは、イコライザーウインドウ、フィルターウインドウでも設定できます。

ハムキャンセル

Hum Cancelコマンドを使って、ハムキャンセル機能をオン/オフします。

注意: ハムキャンセル機能は、YDG2030とYDP2006では使えません。

1. デバイスウインドウでデバイスアイコンを選びます。

2. OptionメニューでHum Cancelを選びます。

ハムキャンセルをオンにすると、プルダウンメニューのコマンド名の前にチェックの表示が現れます。

第3章 Editメニュー

本章では、Editメニューのコマンド (Cut, Copy, Paste, Clear, Preference) を説明します。

Editメニューの各コマンドが使えるのは、プログラム名などのテキスト入力の操作をするときに限られます。

カット

Cutコマンド (コマンド+X) を使ってテキストデータを削除します。削除されたテキストデータはクリップボードに入るので、必要に応じてペーストすることができます。このテキストデータは、CutやCopyコマンドを使用するまで、クリップボードに残っています。

コピー

Copyコマンド (コマンド+C) を使ってテキストデータをクリップボードにコピーします。このテキストデータは必要に応じてペーストすることができます。

ペースト

Pasteコマンド (コマンド+V) を使って、クリップボードにあるテキストデータをペーストします。

クリア

Clearコマンドを使って、テキストデータを削除します。Cutコマンドと似ていますが、テキストデータはクリップボードに入りません。

プレファレンス

プレファレンスウインドウで、様々なQSI設定を行います。

1. EditメニューでPreferencesを選びます。

次のウインドウが現れます。

Port Select：IFU485を接続するマッキントッシュのシリアルポートを選びます。他のアプリケーションでモデムポートを使用している場合以外はモデムポートを選択してください。プリンターポートを使用した場合の誤動作については責任を負いません。

Baud Rate：ボーレートを選びます。

Auto Polling：自動ポーリングのオン/オフ、ポーリング間隔、タイムアウトの設定を行います。自動ポーリングがオンになっていると、QSIはIntervalパラメータで設定したレートで各デバイスの状態をチェックします。タイムアウトパラメータは、応答しないデバイスをどの位の間チェックしてから次のデバイスに移るかを設定します。

インターバルタイムの設定値が小さいと、QSIはネットワークに頻繁にサーチをかけ、設定値が大きいと、サーチの頻度が少なくなります。かなりの量のデータをエディットする場合は、大きな値を設定してください。エディット操作が速くでき、応答もよくなります。エディット終了後は、値を小さくして通常のネットワークサーチにします。最低値は100です。

注意：設定値が極端に小さく、QSIの操作も遅く応答も悪くなると、デバイスのアイコンに黒色がかかって、実際にデバイスがアクティブでもアクティブでない状態が表示されます。このため、インターバルの値は多少大きめに設定することをお勧めします。

タイムアウトパラメータは、以前にアクティブだったデバイスがネットワークのサーチ中に応答しないときの、QSIの待ち時間を設定します。接続台数が少ない場合にこの値を大きく設定すると、システムたち上げ時間とネットワークサーチの処理時間が長くなります。ただし、正確なシステムの接続状態を確認することができます。タイムアウト設定の最低値は3です。

以上、インターバルとタイムアウトの各パラメータの説明を考慮して、お使いのシステムに応じた最適な設定を行ってください。

Master Select：コントロールマスター機器（デバイスかホストコンピューター）を選びます。コンピューターでQSIを使っている訳ですから、通常はホストコンピューターがマスターコントローラーとなりますが、QSIをすでにできあがったイコライザーシステムに導入し、シーンデータなどが各イコライザーにすでに存在しているときに、このパラメータを使うこともできます。マスターをDeviceからHostに変更すると、QSIはすべてのイコライザーからのデータをリクエストして受信します。こうして、QSIのデータが各イコライザーのデータと一致するので、これでQSIからのコントロールができるようになります。

Master SelectがDeviceのとき：(初期設定) デバイスデータがメインデータです。プロジェクトデータをロードすると、ホストデータのみに影響があり、デバイスデータには関係ありません。ホスト上で行ったEQの調整は、デバイスに影響します。プログラムの呼び出しをホスト側から開始した場合、ホストはデバイスから該当するプログラムデータをリクエストします。デバイス側で開始したEQ調整やプログラムの呼び出しは、ホストにはエコーされません。OptionメニューのUpdateコマンドを使って、ホストデータをアップデートすることができます。

Master SelectがHostのとき：ホストデータがメインデータです。プロジェクトデータをロードすると、ホストデータとデバイスデータに影響します。プログラムの呼び出しをホスト側で開始すると、プログラムチェンジメッセージだけがデバイスに送られます。

Update：OptionメニューのUpdateコマンドを使ったときに、どのデータをアップデートするかを決定します。

Drag Dial：パラメトリックイコライザーのとき、ダイヤルをドラッグして直接操作できるかを指定します。Onにした場合、急激な変化が可能のため、ゲイン調整時などは十分に注意して扱ってください。

Parameter Link：パラメーターリンクがオンのときに、イコライザーの左右チャンネルがどのように作動するかを決定します。Absoluteがオンのとき、調整した左または右のチャンネルコントロールが同じ値になります。Relativeがオンのときは、もう一方のチャンネルが相対的に(同一変化量で)コントロールされます。

Confirm：警告ボックスを表示させるか、いつ表示させるかを指定します。Alwaysにすると、警告ボックスは通常通り表示されます。Save & Fatalを選ぶと、データを変更するコマンドであるセーブや実行の前に現れます。Only Fatalを選ぶと、致命的エラーのときだけ警告ボックスが表示されます。

第4章 ウィンドウ

本章ではWindowメニューコマンドと関連ウィンドウについて説明します。

デバイス/シーン

WindowメニューのDeviceコマンドとSceneコマンドを使って、デバイスウィンドウ、シーンウィンドウを選びます。これはそれぞれのウィンドウでクリックするのと同じことです。一度に一つのウィンドウだけがアクティブになり、アクティブなウィンドウの名前がグレイで表示されます。

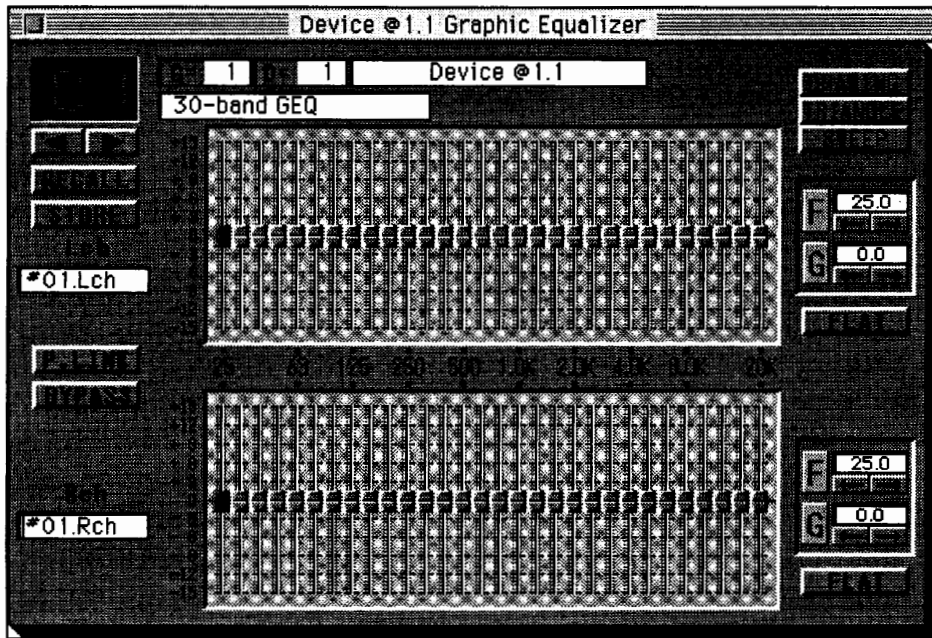
グラフィックイコライザー

グラフィックイコライザーのウィンドウから、グラフィックEQ機能にアクセスします。

注意: イコライザー機能についての詳しい説明は、各デジタルイコライザーの取扱説明書をお読みください。

1. グラフィックイコライザーウィンドウを選ぶには、デバイスウィンドウでデバイスアイコンをダブルクリックしてください。または、デバイスアイコンを強調表示させ、ウィンドウメニューでイコライザーを選びます(コマンド+E)。

グラフィックイコライザーのウィンドウが表示されます。



注意: デバイスがパラメトリックイコライザーモードの場合は、パラメトリックイコライザーウィンドウが現れます。

グラフィックイコライザーウィンドウは複数、同時にオープンすることができます。

グラフィックイコライザーウィンドウをクローズするには、ウィンドウのクローズボックスをクリックしてください。

デバイスのグループナンバー、デバイスナンバー、名前が、タイトルバーのすぐ下に表示されます。

2. スライダーはドラッグして調整します。

スライダーボタンを選ぶと、その色が変わって、アクティブなスライダーとなったことを示します。

選択しているプログラムナンバーは画面左上の隅に表示され、プログラム名がその右に表示されています。プログラムの名前は、最高16文字まで入力できます。これは、デバイスのユーティリティモードでのタイトルエディット機能と同じです。

別のプログラムを選択するには、プログラムナンバーの下の矢印をクリックします。左の矢印は数字が小さく、右の矢印は数字が大きくなります。矢印のボタンを押し続けると、プログラムナンバーが連続して変化します。異なるプログラムナンバーを選ぶと、そのナンバーが点滅します。これは、選んだプログラムナンバーと、保存したばかりのプログラムまたは呼び出したばかりの最新のプログラムとが一致しないことを表しています。ここでもう一度最新のプログラムナンバーを選ぶ、もしくは他の部分をクリックすると、点滅が止まります。

プログラムナンバーをいったん選んだら、RECALLをクリックしてこれ呼び出すか、STOREで保存してください。STOREを押すと、警告ボックスが出て確認してきます。OKをクリックして続行するか、Cancelを選んでください。

注意: デバイスのソフトウェアプロテクト機能がオンになっているときは、プログラムを保存することはできません。

プログラムの呼び出しが完了すると、プログラムナンバーの点滅が止まり、すでに保存されていれば、プログラムとチャンネル名が現れます。

グラフィックイコライザーの他のパラメーターには次のものがあります。

DRAWING: クリックしてドローイングモードを選びます。このモードでは、スライダーの部分でマウスをドラッグさせて実際にEQ曲線を描くことができます。マウスの軌道に沿って、スライダーのつまみが並びます。

TRIANGLE: クリックしてトライアングルモードを選びます。このモードでは、3つの点を指定することによって、EQ曲線を描きます。QS1はこの3点を結ぶEQ曲線を作ります。3点目は先に指定した2点の中心部を選択してください。

SWEEP: クリックしてスイープモードを選びます。このモードでは、周波数帯を簡単に掃波することができます。フィードバックを起こしたりするような問題のある周波数帯を見つけるときに役立ちます。マウスをスライダー上でドラッグすると、スライダーが次々と上下し、次のスライダーを選ぶと元の位置に戻ります。

F: 矢印をクリックして、周波数帯を選びます。

G: 矢印をクリックして、ゲインを設定します。スライダーをドラッグするのと同じです。

FLAT: クリックして、イコライザーのレスポンスをフラットにします。

Lch: 左チャンネルのネームを8文字までの長さで入力します。

Rch: 右チャンネルのネームを8文字までの長さで入力します。

P.LINK: クリックしてパラメーターリンク機能をオン/オフします。

BYPASS: クリックして、バイパス機能をオン/オフします。

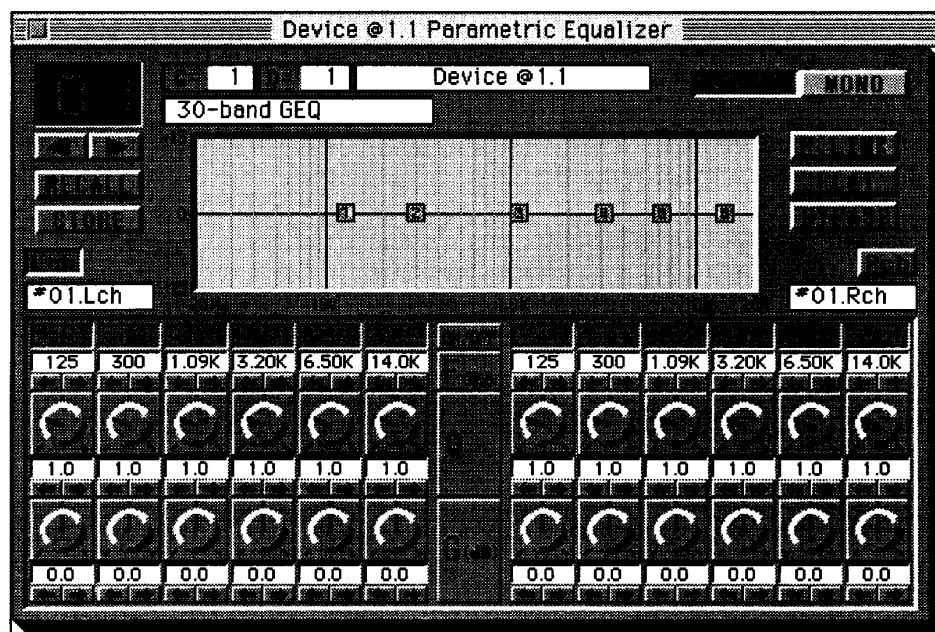
パラメトリックイコライザー

パラメトリックイコライザーのウインドウからは、パラメトリックEQ機能にアクセスします。

注意: イコライザー機能の詳細は、使用機器の取扱説明書をお読みください。

1. パラメトリックイコライザーウインドウを選ぶには、デバイスウインドウでデバイスアイコンをダブルクリックしてください。または、デバイスアイコンを選択して、ウインドウメニューでイコライザーを選びます(コマンド+E)。

パラメトリックイコライザーのウインドウが表示されます。



注意: デバイスがグラフィックイコライザーモードの場合は、グラフィックイコライザーウインドウが現れます。

パラメトリックイコライザーウインドウはいくつでも同時にオープンすることができます。

パラメトリックイコライザーウインドウをクローズするには、ウインドウのクローズボックスをクリックしてください。

デバイスのグループナンバー、デバイスナンバー、名前が、タイトルバーのすぐ下に表示されます。

選択しているプログラムナンバーは画面左上の隅に表示され、プログラム名がその右に表示されています。プログラムの名前は、最高16文字まで入力できます。これは、デバイスのユーティリティモードでのタイトルエディット機能と同じです。

別のプログラムを選択するには、プログラムナンバーの下の矢印をクリックします。左の矢印は数字が小さく、右の矢印は数字が大きくなります。矢印のボタンを押し続けると、プログラムナンバーが連続して変化します。別のプログラムナンバーを選ぶと、そのナンバーが点滅します。これは、選んだプログラムナンバーと、保存したばかりのプログラムまたは呼び出したばかりの最新のプログラムとが一致しないことを表しています。ここでもう一度最新のプログラムナンバーを選ぶ、もしくは他の部分をクリックすると、点滅が止まります。

プログラムナンバーをいったん選んだら、RECALLをクリックしてこれを呼び出すか、STOREで保存してください。STOREを押すと、警告ボックスが出て確認してきます。OKをクリックして続行するか、Cancelを選んでください。

注意: デバイスのソフトウェアプロテクト機能がオンになっているときは、プログラムを保存することはできません。

プログラムの呼び出しが完了するまでには、1秒ほどかかります。完了すると、プログラムナンバーの点滅が止まり、すでに保存されていれば、プログラムとチャンネル名が現れます。

パラメトリックイコライザーの他のパラメーターには次のものがあります。

F：矢印をクリックして、中心周波数を選びます。周波数特性グラフの数字ボックスを右左にドラッグして設定することもできます。

Q：矢印をクリックして、Qを設定します。ロータリーQコントロールをドラッグしても設定できます。

注意：ロータリーゲイン、QコントロールはプレファレンスのDrag DialをONにしないとドラッグできません。

G：矢印をクリックして、ゲインを設定します。ロータリーゲインコントロールをドラッグするか、周波数特性グラフの数字ボックスを上下にドラッグしても設定できます。

注意：ロータリーゲイン、QコントロールはプレファレンスのDrag DialをONにしないとドラッグできません。

FLAT：クリックして、イコライザーのレスポンスをフラットにします。

Lch：クリックすると左チャンネルがアクティブになります。

Rch：クリックすると右チャンネルがアクティブになります。

P.LINK：クリックしてパラメーターリンク機能をオン/オフします。

注意：YDP2006ではモノモードに設定されているときはP.LINK機能は動きません。

BYPASS：クリックして、バイパス機能をオン/オフします。

STEREO/MONO：ボタンをクリックして、デバイスをステレオまたはモノパラメトリックモードに設定します。

注意：STEREO/MONOパラメーターは、YDP2006でのみ有効です。

Eq. Com

コモンウインドウからは、コモン機能にアクセスします。

注意: コモン機能についての詳細は、各デジタルイコライザーの取扱説明書をお読みください。

1. コモンウインドウを開くには、デバイスウインドウでデバイスアイコンを選択し、ウインドウメニューでEq. Comを選びます(コマンド+M)。

DEQ5, DEQ5Eのウインドウ

Device @1.1 Common	
Left Channel	Right Channel
Hum Cancel <input checked="" type="radio"/> Auto <input type="radio"/> Manual	Hum Cancel <input checked="" type="radio"/> Auto <input type="radio"/> Manual
Frequency <input type="text" value="50"/> Threshold <input type="text" value="-75"/>	Frequency <input type="text" value="50"/> Threshold <input type="text" value="-75"/>
Polarity <input checked="" type="radio"/> Normal <input type="radio"/> Reverse	Polarity <input checked="" type="radio"/> Normal <input type="radio"/> Reverse
Delay Units <input checked="" type="radio"/> Milliseconds <input type="radio"/> Meters/Millimeters <input type="radio"/> Feet/Inches	Delay Units <input checked="" type="radio"/> Milliseconds <input type="radio"/> Meters/Millimeters <input type="radio"/> Feet/Inches
Delay <input type="text" value="0.021"/>	Delay <input type="text" value="0.021"/>
Att. In <input type="text" value="0.0"/>	Att. In <input type="text" value="0.0"/>
Out <input type="text" value="0.0"/>	Out <input type="text" value="0.0"/>

YDG2030, YDP2006のウインドウ

Device @1.2 Common	
Left Channel	Right Channel
Delay <input type="radio"/> On <input checked="" type="radio"/> Off	Delay <input type="radio"/> On <input checked="" type="radio"/> Off
Delay Units <input checked="" type="radio"/> Milliseconds <input type="radio"/> Meters/Millimeters <input type="radio"/> Feet/Inches	Delay Units <input checked="" type="radio"/> Milliseconds <input type="radio"/> Meters/Millimeters <input type="radio"/> Feet/Inches
Delay <input type="text" value="0.031"/>	Delay <input type="text" value="0.031"/>
Att. In <input type="text" value="0.0"/>	Att. In <input type="text" value="0.0"/>

左チャンネル機能が左側、右チャンネル機能が右側に現れます。

複数のコモンウインドウを同時にオープンすることができます。

コモンウインドウを閉めるには、クローズボックスをクリックします。

コモンウインドウには次の機能があります。

Hum Cancel: ハムキャンセル機能をAutoかManualに設定するとき、および周波数とスレシヨルド値を設定するときに使用します。上下の矢印をクリックして設定します。

Polarity: 出力のポラリティをNormalかReverseに設定します。

Delay Units: デレイ単位の設定に使用します。デレイタイムを調整するまでは、デバイスは新しい設定値を使用しません。

Delay: デレイタイムの設定に使用します。スライダーをドラッグするか、上下の矢印をクリックして設定します。

Att.: 入出力のアッテネータレベルを設定します。スライダーをドラッグするか、上下の矢印をクリックして設定します。テキストフィールドの“-”は∞無限大を意味します。

注意: Hum CancelとPolarityのパラメーターはYDG2030とYDP2006にはありません。

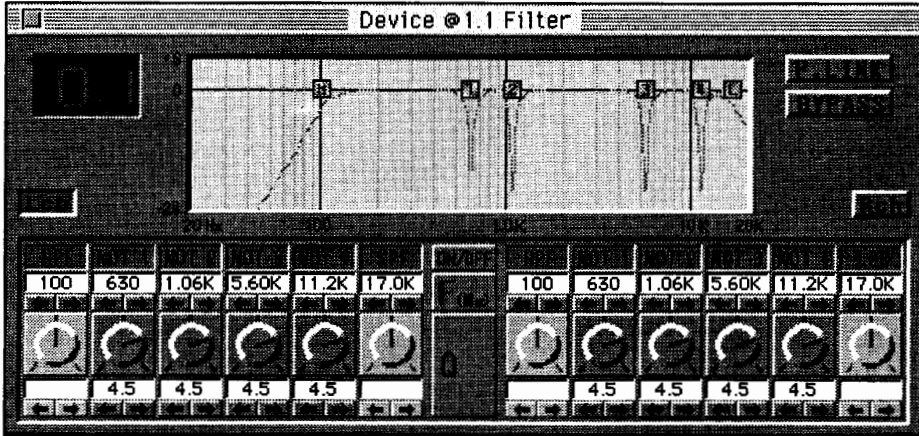
YDP2006のモノモードではコモン機能はLch側でのみ機能します。

フィルター

フィルターウィンドウから、フィルターコントロールにアクセスします。

1. フィルターウィンドウを開くには、デバイスウィンドウでデバイスアイコンを選択し、ウィンドウメニューでFilterを選びます(コマンド+F)。

フィルターウィンドウが表示されます。



複数のフィルターウィンドウを同時にオープンすることができます。

フィルターウィンドウを閉めるには、クローズボックスをクリックします。

Lch : クリックすると左チャンネルがアクティブになります。

Rch : クリックすると右チャンネルがアクティブになります。

P.LINK : クリックして、パラメーターリンク機能をオン/オフします。

BYPASS : バイパス機能をオン/オフします。

ON/OFF : オン/オフボタンをクリックして、個々のフィルターをオン/オフします。

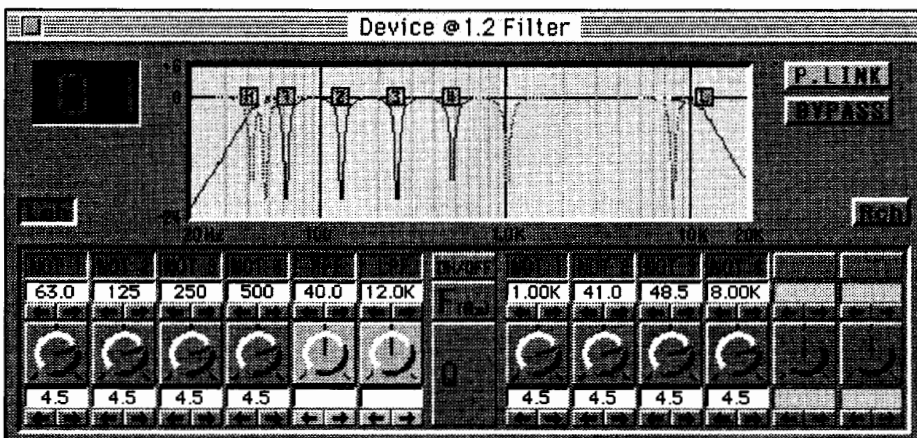
F (Hz) : 矢印をクリックして、フィルターの周波数を設定します。フィルター周波数は、フィルターの周波数特性グラフの数字ボックスをドラッグして設定することもできます。

Q : 矢印をクリックして、フィルターQを設定します。

フィルターQは、ロータリーQコントロールをドラッグして設定することもできます。

注意 : HPFとLPFにはQパラメーターはありません。

YDP2006のモノモードでは下の表示のように順番が変わります。

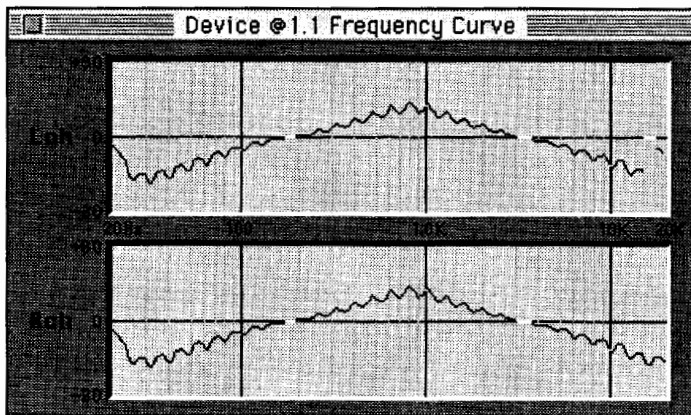


周波数曲線

周波数曲線ウィンドウは、デバイスの周波数特性を表示します。

1. 周波数曲線ウィンドウを開くには、デバイスウィンドウでデバイスアイコンを選択し、ウィンドウメニューでCurveを選びます(コマンド+A)。

周波数曲線ウィンドウが表示されます。

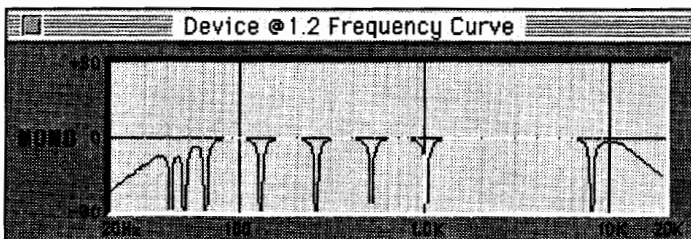


複数の周波数曲線ウィンドウを同時にオープンすることができます。

周波数曲線ウィンドウを閉めるには、クローズボックスをクリックします。

注意: 周波数曲線ウィンドウは自動でアップデートされません。EQ調整を行ったとき、ウィンドウをクリックしてアクティブにしてください。ウィンドウはアップデートされ書き換えられた周波数曲線が表示されます。

YDP2006のモノモードでは周波数曲線ウィンドウは下のように少し異なります。



ユーティリティ

ユーティリティウィンドウから、ユーティリティ機能にアクセスします。

注意: ユーティリティ機能についての詳細は、デジタルイコライザーの取扱説明書をお読みください。

1. ユーティリティウィンドウを開くには、デバイスウィンドウでデバイスアイコンを選択し、ウィンドウメニューでUtilityを選びます(コマンド+U)。

ユーティリティウィンドウが表示されます。

DEQ5, DEQ5Eのユーティリティ

Device @ 1.1 Utility			
Sampling Freq = 48.0K		PLL Lock = OFF	
I/O Mode	Clock Source	In Format	Bit Shift
<input checked="" type="radio"/> Analog	<input checked="" type="radio"/> Internal	<input checked="" type="radio"/> Y2	00
<input type="radio"/> Pre Send	<input type="radio"/> AES/EBU	<input type="radio"/> AES/EBU	00
<input type="radio"/> Post Send	<input type="radio"/> Y2		
<input type="radio"/> Digital	<input type="radio"/> Word Clk		
Emphasis		Remote Address	
<input checked="" type="radio"/> Off <input type="radio"/> On <input type="radio"/> Auto		Group 1 Device 1	

複数のユーティリティウィンドウを同時にオープンすることができます。

ユーティリティウィンドウを閉めるには、クローズボックスをクリックします。

ユーティリティウィンドウには次の機能があります。

Sampling Freq: デバイスのサンプリング周波数を表示します。

PLL Lock: PLLロックがオンになっているかオフになっているかを表示します。

I/O Mode: I/Oモードを設定するために使用します。

Clock: デバイスのクロックソースを設定するために使用します。

In Format Bit Shift: デバイスのデジタル入力フォーマットとビットシフトを設定するために使用します。上下の矢印をクリックして、ビットシフトを設定します。

注意: ビットシフトはDEQ5Eでは無視されます。

Emphasis: エンファシス機能をオン/オフ、またはAutoに設定するために使用します。

Remote Address: デバイスのリモートアドレス(グループ番号、アドレス番号)を設定するために使用します。

YDG2030, YDP2006のユーティリティ

Device @ 1.2 Utility	
Sampling Freq = 32.0K	PLL Lock = OFF
Emphasis	Remote Address
<input checked="" type="radio"/> Off <input type="radio"/> On	Group 1 Device 2

タイムコードイベント

タイムコードイベントウィンドウでは、プログラムリコールイベントを入力することができます。

注意: タイムコードイベント機能についての詳細は、デバイスの取扱説明書をお読みください。

1. タイムコードイベントウィンドウを開くには、デバイスウィンドウでデバイスアイコンを選択し、ウィンドウメニューでTime Codeを選びます(コマンド+T)。

タイムコードイベントウィンドウが表示されます。

No.	HH	MM	SS	FF	Pgm
1	00	00	01	00	1
2	00	00	10	00	2
3	00	00	20	00	5
4	00	00	26	00	3
**	**	**	**	**	nop

注意: タイムコードイベントが使えるのはDEQ5だけです。

複数のタイムコードイベントウィンドウを同時にオープンすることができます。

イベントリストウィンドウがいっぱいになると、画面が自動的にスクロールします。イベントリスト全体を見たいときは、スクロールバーを使うか、ズームボックス、サイズボックス等を使用してください。

タイムコードイベントウィンドウを閉めるには、クローズボックスをクリックします。

2. タイムコードイベント機能をオン/オフするには、Eventのチェックボックスをクリックします。
タイムコードイベント機能がオンになると、ボックス内にチェックの記号が表示されます。
3. Typeボタンの30、30D、25、24からタイムコードのタイプを選んでください。
4. イベントを入力するには、HH:MM:SS:FFコントロールでタイムコードアドレスを設定し、pgmコントロールでプログラム番号を入力し(nopはno Program(プログラムなし)を表しています)、次にStoreをクリックしてイベントをリストに加えます。
5. 必要に応じて上記のステップ4を繰り返して、イベントを追加してください。
6. イベントリストをデバイスに送るには、Transmitをクリックします。

注意: ユーティリティモードのときは、デバイスはイベントリストを受信しません。

第5章 プロジェクト

本章では、プロジェクトとは何か、またプロジェクトの使い方について説明します。

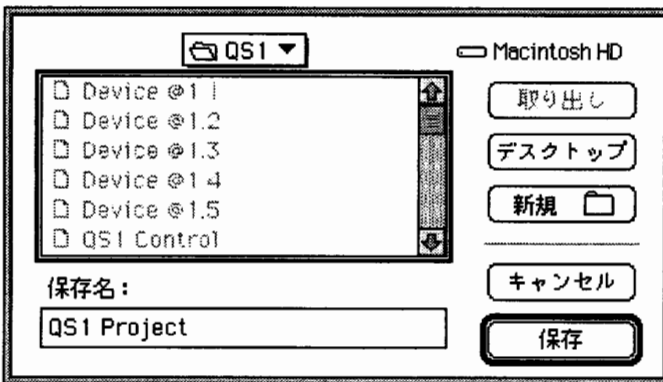
プロジェクトとは?

プロジェクトは複数のイコライザーを使ったシステムで、イコライザーデータを管理する理想的な手段です。プロジェクトには、すべてのイコライザー機器のデータが入ります。また、最高100個までのシーンを使って、複数のイコライザー上にプログラムを同時に呼び出すこともできます。各シーンには適当なアイコンを割り当て、このアイコンをダブルクリックすることによって、シーンを切り換えます。またデバイスウィンドウでのデバイスアイコンの位置はプロジェクトに記憶されます。

新しいプロジェクトの作成

1. 新しいプロジェクトを作成するには、ProjectメニューでNew Projectを選びます。

ダイアログボックスが現れます。



2. 新しいプロジェクトの名前を入力し、セーブ先のフォルダを選びます。
3. 保存をクリックします。

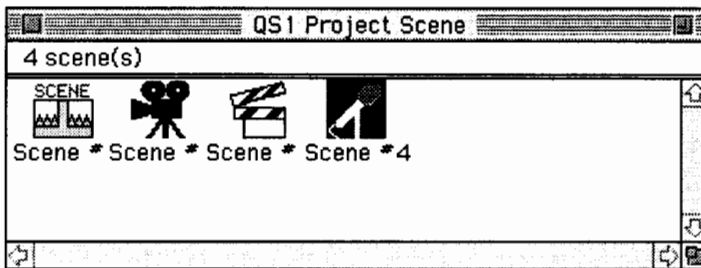
空のシーンウィンドウが現れ、タイトルバーにプロジェクトの名前が表示されます。

プロジェクトへのシーンの追加

1. シーンをプロジェクトに追加するには、ProjectメニューでNew Scene (コマンド+K)を選びます。

新しいシーンのアイコンがシーンウィンドウに表示されます。

プロジェクト内のシーンの数は、下のようにシーンウィンドウのタイトルバーの下に表示されます。



シーン名

1. シーンに名前を付けるには、アイコンの下の名前をクリックします。
名前が強調表示されます。
2. 16文字までの名前を入力します。
3. Returnを押します。

シーンのエディット

1. シーンをエディットするには、ProjectメニューのEdit Sceneを選びます(コマンド+R)。
次のウインドウが現れます。

Model Adrs	Device Name	Program Name	Pgm No
DEQ5 (1,1)	Device @1.1	30-band GEQ	1
YDP (1,2)	Device @1.2	6-band PEQ	21
YDG (1,3)	Device @1.3	6-band PEQ	23

このウインドウは、アクティブとなっているイコライザー全機器のモデル名、アドレス、デバイス名、プログラムチェンジナンバーを表示しています。各イコライザーは、シーンを実行するときに各々のプログラムを呼び出すように設定することができます。

2. プログラムを選択するには、上下の矢印をクリックします。
各プログラムチェンジナンバーを選ぶと、該当するプログラム名が現れます。
3. 終了したらクローズボックスをクリックします。

シーン切り替えの実行

シーンの切り替えは、次の3通りがあります。

1. シーンアイコンをダブルクリックする。
2. シーンアイコンを選んで、コマンド+Gを押す。
3. シーンアイコンを選んで、ProjectメニューのTransmit Sceneを選ぶ。

注意: 各デバイスのリモートアドレスには絶対にブロードキャストを設定しないでください。ブロードキャストを設定した場合、正確なシーン切り替えの実行ができないことがあります。

シーンの削除

1. シーンを削除するには、シーンアイコンを選択してから、ProjectメニューのDelete Sceneを選びます(コマンド+D)。

プロジェクトのセーブ

1. プロジェクトをセーブするには、ProjectメニューでSave Projectを選びます。

プロジェクトのクローズ

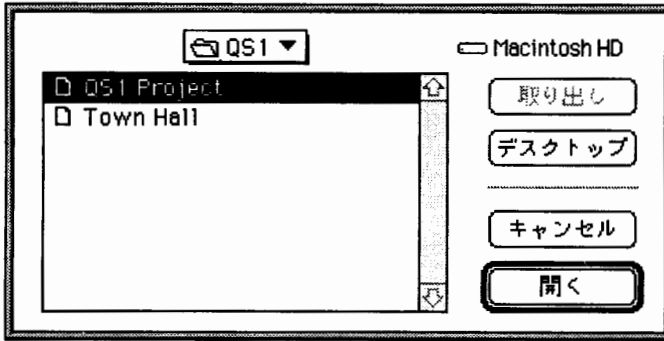
1. プロジェクトをクローズするには、ProjectメニューでClose Projectを選びます。

セーブすべきプロジェクトデータがあると、警告ボックスが現れます。

注意: プレファレンスウインドウのAuto Pollingボックスが認識されオンされます。QS1がネットワークのポーリングを再び始めるとクローズされたプロジェクトからデバイスが再びあらわれます。プロジェクト、またそのデバイスをクローズしたいときはオートポーリングをオフにしてください。

プロジェクトのオープン

1. すでにあるプロジェクトをオープンするには、ProjectメニューのOpen Projectを選びます。
ダイアログボックスが現れます。



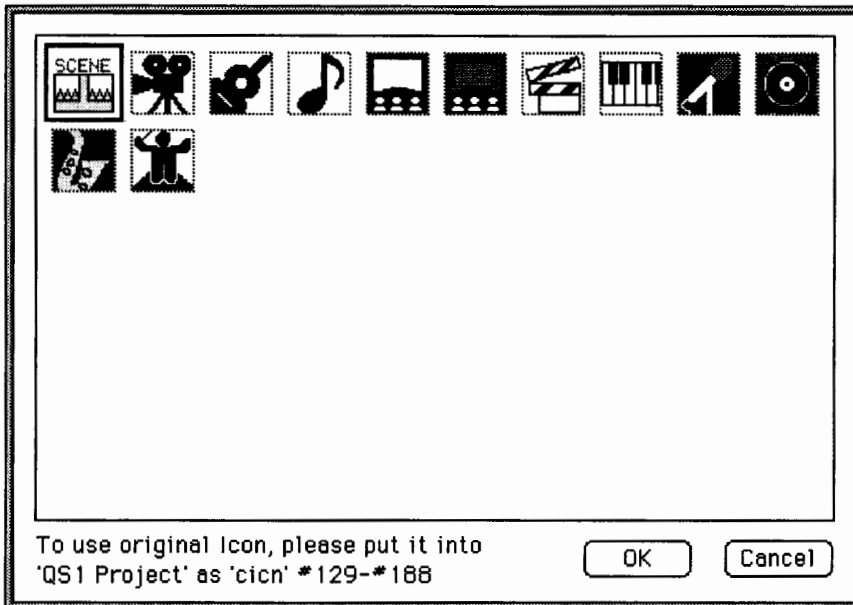
2. プロジェクトを選んで開くをクリックします。
注意: 一度にオープンできるプロジェクトは一つだけです。

シーンアイコンの選択

各シーンに異なるアイコンを選択すると、シーンウインドウでのシーンの判別がしやすくなります。

1. シーンアイコンを変更するには、シーンを選択してから、ProjectメニューのChange Iconを選びます (コマンド+N)。

次のウインドウが現れます。



2. アイコンを選んでクリックします。
3. OKをクリックします。
新しいアイコンのシーンが現れます。

シーンアイコンのカスタム化

35ページ「シーンアイコンのカスタム化」をお読みください。

第6章 バルクデータ

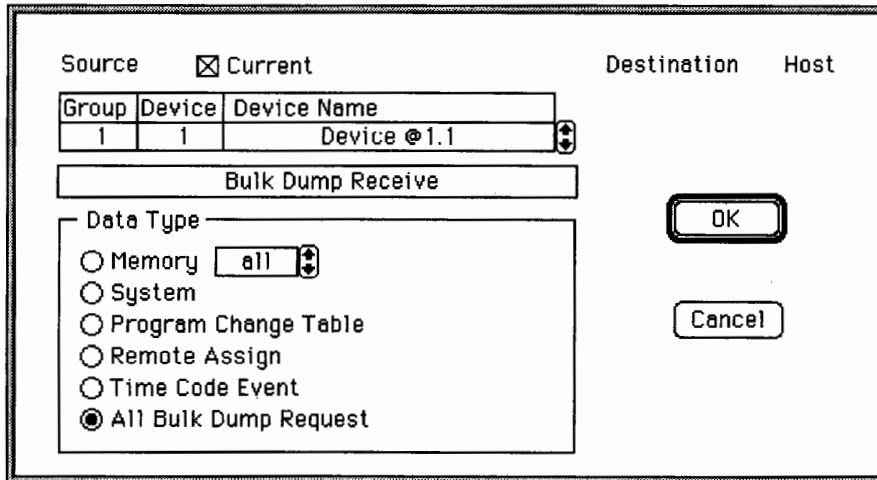
本章では、デバイスのバルクデータの送受信の仕方を説明します。

バルクデータの受信

Bulk Dump Receiveコマンドで、デバイスのバルクダンプデータリクエストと受信を行います。

1. FileメニューでReceiveを選びます。

次のダイアログボックスが現れます。



2. Group、Device、Device Nameボックスの横にある上下の矢印をクリックして、ソースデバイスを選びます。

現在のデバイスを選択すると、Currentボックスにチェック表示が入ります。

チェックボックスをクリックすると、現在のデバイスが自動的に選択されます

デスティネーションデバイスは、ダイアログボックスの右隅に表示されます。

現在のデバイス以外のデバイスからデータをコピーするときはバルクダンプ送信機能を使い、一度ホストに送られたデータを送信します。そうしないと、ホストデータとデバイスデータは異なってしまいます。

3. データタイプを選択します。

次のデータタイプから選んでください。

Memory：全メモリー（プログラム）一括、または個々のメモリー。上下の矢印をクリックして、全メモリーまたはメモリー1-40の一つを選んでください。

System：システムデータ

Program Change Table：プログラムチェンジテーブルデータ

Remote Assign：リモートアサインデータ

Time Code Event：タイムコードイベントリストデータ

All Bulk Dump Request：上記のデータすべて（初期設定）

4. OKをクリックして受信するか、Cancelします。

データ受信には数秒かかります。

バルクデータの送信

Bulk Dump Transmitコマンドを使って、バルクダンプデータをデバイスに送信します。

1. FileメニューでTransmitを選びます。

次のダイアログボックスが現れます。

Group	Device	Device Name
1	1	Device @1.1

2. Group、Device、Device Nameボックスの横にある上下の矢印をクリックして、デスティネーションデバイスを選びます。

現在のデバイスを選択すると、Currentボックスにチェック表示が入ります。

チェックボックスをクリックすると、現在のデバイスが自動的に選択されます

ソースデバイスは、ダイアログボックスの右隅に表示されます。

3. データタイプを選択します。

次のデータタイプから選んでください。

Memory：全メモリー（プログラム）一括、または個々のメモリー。上下の矢印をクリックして、全メモリーまたはメモリー1-40の一つを選んでください。

System：システムデータ

Program Change Table：プログラムチェンジテーブルデータ

Remote Assign：リモートアサインデータ

Time Code Event：タイムコードイベントリストデータ

All Bulk Dump：上記のデータすべて（初期設定）

4. OKをクリックして送信するか、Cancelします。

データ送信には数秒かかります。

マスターセレクト

ここではマスターセレクトについてもっと詳しく説明します。通常の操作を行っている間は、マスター機器のデータは破壊されません。初期設定では、マスターセレクトはデバイスに設定されています。

ホストがマスターの時

- ホストデータがメインデータとなります。
- プロジェクトをロードすると、ホストデータとデバイスデータがアップデートされます。
- プログラムナンバーをホスト側で変更すると、プログラムチェンジメッセージのみが送信されます。

デバイスがマスターの時

- デバイスデータがメインデータとなります。
- プロジェクトをロードすると、ホストデータのみがアップデートされます。
- ホスト側で行ったパラメーターの変更はすべてデバイスデータに反映されます。
- プログラムナンバーをホスト側で変更すると、バルクダンプリクエストを使って該当するデータをデバイスから受信します。

Master SelectをDeviceからHostに変更すると、ホストはアクティブとなっている機器全てからバルクデータを受信します。

基本操作

1. ホストコンピューターからシステムをコントロールし、デジタルイコライザー全機器のデータをアップデートしてホスト側のデータと一致するようにする場合。

複数の機器を使用する場合、全機器の電源を入れ、各機器のローカルアドレス(グループ、デバイス)を設定します。次に、これをY-485を使って接続します。

ホストコンピューターの電源を入れ、QSIをスタートさせます。QSIはネットワークの中でアクティブとなっている機器を捜し、これをデバイスウィンドウに追加します。アクティブとなっている機器が全て追加されたこと、また各ローカルアドレスが正しいことを確認してください。

PreferencesのMaster SelectをHostに設定します。

アクティブな機器全てからホストコンピューターにデータが送信されます。ホスト側で行ったパラメーターの調整は、すべてアクティブ機器に反映されます。

プロジェクトファイルをオープンすると、ホストデータとデバイスデータがアップデートされます。

2. デバイスデータをメインデータとして使用する場合。

機器内のデータ自体は変更しないで、現在のデータを微調整したい時:

プレファレンスのマスターセレクトパラメーターをデバイスに設定します。デバイスデータは変更されません。変更内容が、各デバイスに反映されます。

プロジェクトファイルをオープンすると、ホストデータだけがアップデートされ、デバイスにはデータは送信されません。

ホスト側でプログラムナンバーを変更すると、データが各デバイスから受信されます。ホストコンピューターのデータは常に一時的なバッファとしての役割を果たします。

トラブルシューティング

もしQS1が思いどおりに動かないときは症状をチェックし次のように対策してください。

症 状	対 策
QS1を立ち上げたときIFU485のBusyインジケーターが点灯しない	デジタルイコライザー、コンピューター、IFU485の順に電源を入れてからQS1を立ち上げてください。
	内蔵モデムを使っているときは、関連ソフトウェアの設定を汎用にするか、モデムを取り外してお使いください。モデムポートを使っている場合はQS1は起動しません。
QS1を立ち上げたがデバイスアイコンが表示されず何もコントロールできない	プレファレンスでQS1、IFU485のボーレートを9600か38400に設定してください。
	プレファレンスでQS1とIFU485のボーレートと一致しているか確かめてください。
	コンピューターとIFU485はストレートケーブル(モデムタイプ)で接続されていますか? クロスケーブルで(プリンター・タイプ)で接続しないでください。
	IFU485の設定をチェックしてください。 Powerスイッチ: ON TERMINATEスイッチ: ON SELECTスイッチ: RS-232CかRS422 内部ボーレートスイッチの確認(出荷時は9600)
	デジタルイコライザーの設定をチェックしてください。 Comm I/O; ALL ローカルアダプス、ボーレート
	システムフォルダ内の登録ソフトウェアを全てはずして、標準システムにしてください。マッキントッシュのShiftキーを押しながら電源をONしてください。 当社の相談窓口へご相談ください。
QS1の操作が時々止まる	プレファレンスでAuto PollingのTime Out設定を2~3くらいの低い値に設定してください。あるいはAuto Pollingチェックボックスをオフにしてください。オンの状態ですとQS1は定期的に接続されているデジタルイコライザーのステータスをチェックしてしまいますのでQS1の操作が中断されてしまいます。
イコライザーアイコンがアクティブにならない	14ページ"プレリファレンス"のAuto Pollingの項参照
カラーモニターの配色がおかしい	Monitorコントロールパネルで256色以下の設定にしてください。
QS1の立ち上がりが遅い	プレファレンスでMaster SelectをDeviceしてOKをクリックします。再びMaster SelectをHostにしてOKをクリックしてください。アクティブになっているデジタルイコライザーよりデータがホストに送られます。新しいプロジェクトを作りセーブします。プロジェクトファイルに全データが保存されます。そうすればプロジェクトファイルをダブルクリックするだけで全データは速くロードできます。 注意: 31台のデジタルイコライザーから9600ボーレートで全データを受信するのに約10分必要です。

メニューバーのコマンドが無効なときがある	Master SelectがDeviceに設定されているとデジタルイコライザーによってはいくつかのコマンドは使えません。コンファメーションダイアログボックスメッセージも異なります。選ばれているデバイスやどのウィンドウがアクティブになっているかによって違いがあります。
"Can't create..."のメッセージが現われファイルを作れない	QS1をフロッピー・ディスクから立ち上げているときはディスクのライトプロテクトタブをはずしてください。又、ディスクの空き容量を確認してください。
	QS1をハードディスクから立ち上げているときはディスクに新しいファイルのためのスペースがあるか確認してください。
Printerポートを使うとシステムが動かない	通常、ポートはモデムを使ってください。すでにmodemポートを使っているシステム以外ではPrinterポートを使わないでください。Printerポートを使った場合での誤動作に対して当社は責任をとりません。

用語集

アクティブウインドウ—マッキントッシュのデスクトップ上で一番手前に開いているウインドウで、タイトルバー、クローズボックス、ズームボックス、サイズボックスが表示されているもの。一般的には、現在アクティブとなっているアプリケーションのウインドウ。

アクティブな機器—QS1が検知した作動中のデジタルイコライザー

グリーンルーム—劇場やコンサートホールで演奏者がリラックスできる部屋。

クリップボード—コピーやカットするデータを一時的に保存する、コンピューターのメモリー領域。クリップボードにあるデータは、異なるアプリケーション間でペーストできる。

グループID—デバイスが属するグループを表すデバイスアドレスの一部。

クローズボックス—アクティブウインドウの左上にある小さなボックス。これをクリックするとウインドウが閉まる。

コントロールファイル—通常の操作に必要なQS1ファイル。

シーン—プログラムチェンジを管理する便利な方法。プログラムチェンジメッセージは、複数の機器に同時に送信することができる。アイコンをダブルクリックすると、送信が始まる。

自動ポーリング—QS1が一定時間ごとに接続機器の状態をチェックする動作。

ズームボックス—アクティブウインドウの右上にある小さなボックス。これをクリックするとウインドウが大きくなって、ウインドウ内の項目をすべて見ることができる。もう一度クリックすると以前のサイズに戻る。

ダミーデバイス—アクティブな機器が接続されていない時にダミーデバイスを使って、QS1をスタートさせ、様々なグラフィックイコライザーウインドウを見たり、シーンデータをチェックすることができる。

チェックボックス—ダイアログボックスやウインドウに表示される小さなボックス。選択肢をオン/オフするのに使用する。チェックボックスにX印が入っていると、その選択肢が選ばれていることを表す。

テキストフィールド—テキスト入力を受け付けるダイアログボックスやウインドウ上の長方形の枠。

デバイス—QS1でコントロールできるデジタルイコライザーを指す一般的な用語。グラフィックイコライザー、パラメトリックイコライザーなどを指している。

デバイスアドレス—ネットワーク上で各デバイスに指定されている、排他的な識別ナンバー。デバイスID、グループIDを参照のこと。

デバイスファイル—デバイスデータを保存するQS1ファイル。

デバイスID—デバイスがグループ内のどの番号であるかを表す、デバイスアドレスの一部。

ネットワーク—通信用に接続された複数の機器。

プログラム—デバイスに保存されている一連のイコライザー設定。

プロジェクト—数々のイコライザーを含むシステムでデジタルイコライザーデータを管理する便利な方法。

プロジェクトファイル—プロジェクトデータを保存するQS1ファイル。

ボーレート—データ送信の速度で、1秒間に転送されるビットの数。

PICTファイル—マッキントッシュで頻繁に使用するビットマップグラフィックファイルフォーマット。クリップボードを通してPICTデータ送信をサポートするアプリケーションを使い、デバイスウインドウ用に自分独自のバックグラウンドを作成することができる。

RS-232C — PC-ATコンピュータ及び互換機で使用するシリアル通信プロトコル。

9ピンまたは25ピンのDSUBタイプの接続。

RS-422 — マッキントッシュコンピュータで使用するバランス式シリアル通信プロトコル。

8ピン、ミニDINタイプの接続。

Y-485 — ヤマハデジタルイコライザーが使用するシリアル通信プロトコル。

付録

キーボードでのショートカット

以下のキーの組合せを使うと、QS1のコマンド入力が迅速にできます。

Fileメニュー

コマンド+N	新しいデバイスの作成
コマンド+O	デバイスのオープン
コマンド+W	選択デバイスのクローズ
コマンド+S	選択デバイスのセーブ
コマンド+L	デバイスデータのロード
コマンド+I	デバイス情報の入手
コマンド+Q	QS1の終了

Projectメニュー

コマンド+K	新しいシーン作成
コマンド+D	選択シーンの削除
コマンド+R	選択シーンのエディット
コマンド+J	選択シーンのアイコンの変更
コマンド+G	選択シーンの送信

Windowメニュー

コマンド+E	イコライザーウィンドウのオープン
コマンド+M	コモンウィンドウのオープン
コマンド+F	フィルターウィンドウのオープン
コマンド+A	周波数曲線ウィンドウのオープン
コマンド+U	ユーティリティウィンドウのオープン
コマンド+T	タイムコードイベントウィンドウのオープン

Viewメニュー

コマンド+B	バックグラウンドダイアログボックスのオープン
--------	------------------------

シーンアイコンのカスタム化

ResEditなどのアプリケーションを使って、ご自分独自のシーンアイコンを作成することができます。このようなアプリケーションは、ほとんどのコンピューターブルティンボードで手に入れることができます。ResEditを使ってファイルをエディットすることは、非常に危険なことです。少々ミスしただけでも、ファイルをまったく使いものにならなくしてしまいます。QS1のファイルのエディットは、お使いになる方がリスクを負うこととなります。ヤマハでは責任を負いかねませんので、ご了承ください。ResEditの詳細については、数々の出版物が出ています。

カスタムアイコンの作成は、プロジェクトファイルの“cicn”リソース内で行い、129から188までのIDナンバーをアサインしてください。

QS1データの送信

ご自分のQS1データを他のマッキントッシュコンピューターでご使用になるには、QS1アプリケーションと関連コントロールファイル、デバイスファイル、プロジェクトファイルをコピーする必要があります。

Confirmation Messages

Address duplication...(gg, dd)

Replace 'xx' by 'xx' ?

Level: Fatal

When: Initialize & Open Device

読もうとしたデバイスファイルのアドレスが、すでにあるものと重なっている。

OK: 既存のデバイスをファイルの内容で置き換える。

Cancel: ファイルの読み込みをやめる。

Changing master

Receive all data?

Level: Normal

When: Preferences

MasterをHostに換えたとき。

OK: 全てのデバイスの全データを受信する。

Cancel: 何もしない。

Changing Type

Round illegal frame?

Level: Normal

When: Time Code Event

フレームタイプの選択を変更したとき。

OK: フレームの値を有効値に丸める。

Cancel: フレームタイプを換えない。

Closing edited device/project

Save 'xxxx' before closing ?

Level: Fatal & Save

When: Close Device, Close Project

編集したデバイス/プロジェクトを閉じるとき。

Yes: 保存してから閉じる。

No: 保存せずに閉じる。

Cancel: 閉じるのをやめる。

Data are edited

Are you sure to recall #mm?

Level: Normal

When: Memory Recall

編集したデータをセーブせずにリコールしようとしたとき。

OK: リコールする。

Cancel: リコールしない。

Edit window is opening**Delete 'xxxx' ?**

Level: Normal

When: Delete Scene
編集中のシーンを削除しようとしたとき。

OK: 編集ウインドウを閉じて、シーンを削除する。

Cancel: 削除をやめる。

Model conflict @ (gg, dd)**Overload 'xxxx' ?**

Level: Fatal

When: Auto Polling
サーチの結果、すでにあるデバイスと同じアドレスなのにモデルが異なるものが見つかったとき。

OK: 既存のデバイスを、新たに見つかったデバイスで置き換える。

Cancel: 見つかったデバイスを無視する。
(ただし、サーチの度に確認される)

Model mismatch**Continue receiving/transmitting?**

Level: Fatal

When: Bulk Receive/Transmit
異なるモデル間でバルクの送受信をしようとしたとき。

OK: 送受信する。

Cancel: 送受信をやめる。

New device found @ (gg, dd)**Receive all data?**

Level: Normal

When: Auto Polling on Master=Host
MasterがHostの状態でのサーチの結果、新たなデバイスが見つかったとき。

OK: 新たなデバイスのデータを受信する。

Cancel: 新たなデバイスのデータは内部で初期化する。

No device connected**Add dummy one?**

Level: Fatal

When: Initialize
起動時にデバイスが一つもないとき。

OK: ダミーのデバイスを追加する。

Cancel: 追加しない。

Operation will modify memory data**Are you sure to xxxxx?**

Level: Normal

When: GEQ < - > PEQ 変更
Max Gain変更
Stereo < - > Mono変更
Cut, Paste, Clear

Memory Store

等のエディット操作で、操作の結果がエディットバッファではなく直接メモリーデータを変更する場合。

OK: 操作を実行する。

Cancel: 操作をやめる。

Operation will renew all data**Are you sure to update?**

Level: Normal

When: Update on Master=Host & Update=All

MasterがHost、Update modeがCurrent & Allの状態 Updateしようとしたとき。

OK: 現在のデータを全て受信して置き換える。

Cancel: Updateをやめる。

There are some edit windows**Close them?**

Level: Normal

When: Closing Scene Window

シーン編集の画面が開いているときに、シーンウインドウを閉じる場合。

OK: 全てのシーン編集ウインドウを閉じて、シーンウインドウも閉じる。

Cancel: 閉じるのをやめる。

Warning Messages

Add Time Code Event

No more room for adding

Time Code Event編集で、99を越えるイベントをStoreしようとしたとき。

Can't delete preset picture

Background Dialogで、プリセット背景(枠が点線で表示されている)を選択し、[Delete]ボタンを押したとき。

Illegal address value

Open cancelled

デバイスファイルを読み込むとき、ファイル中のアドレスフィールドが不当な値のとき。
正当なデバイスファイルと見なさない。

Illegal control file

Updating 'xxxx'

コントロールファイルの内容が怪しいとき。
正当なコントロールファイルと見なさない。

Illegal project file

Ignore contents

プロジェクトファイルの内容が怪しいとき。
正当なプロジェクトファイルと見なさない。

Load

Illegal mode

Load Dialogで、DEQ5以外の機種に対してRemote Assign/Time Code Eventを選ぼうとしたとき。

No more room for user PICT

Please delete needless one

Background Dialogで、[Add Clipboard]ボタンが押されたが、ユーザー背景の最大数を越えたため、追加できないとき。

Open

Can't open 'xxxx'

前回の終了時にオープンされていたデバイスのファイルがオープンできないとき。
ただし、Confirm LevelがALLでないときは、表示されない。

Paste clipboard

Can't find PICT in clipboard

Background Dialogで、[Add Clipboard]ボタンが押されたが、クリップボードにPICTデータがないとき。

Receive/Transmit bulk

Device (g, d) is not alive

Receive/Transmitで、相手のデバイスの生存が認められないとき。

Receive/Transmit bulk

Illegal model

Receive/Transmit Dialogで、DEQ5以外の機種に対してRemote Assign/Time Code Eventを選ぼうとしたとき。

WARNING

Can't change when Master=Device

MasterがDevice時に、Information Dialogで設定を変更しようとしたとき。

Warning

Can't open while editing parameters

パラメーターの編集中に、Information Dialogを開こうとしたとき。
編集中は開けない。

WARNING

Can't receive device data...@(gg, dd)

何らかの事情で、カレントデータやバルクデータの受信が失敗したとき。

その他

内部矛盾や、環境エラーの場合、適宜Warningが表示される。

索引

- A**
 Add Clipboard 11
 Att 20
 Auto Polling 14
- B**
 Baud Rate 14
 Bypassコマンド 12
- C**
 Clearコマンド 13
 Clock 23
 Close Project 26
 Closeコマンド 8
 Copyコマンド 13
 Curveコマンド 22
 Cutコマンド 13
- D**
 Delay Units 20
 Delete Sceneコマンド 26
 Deviceコマンド 16
 Drag Dial 15
 DRAWINGモード 17
- E**
 Edit Sceneコマンド 26
 Editメニュー 13
 Emphasis 23
 Eq. comウインドウ 20
 Eq. Comコマンド 20
 Equalizer Typeコマンド 12
- I**
 I/Oモード 23
 Iconコマンド 11
 In Format 23
 Informationコマンド 10
- L**
 Listコマンド 11
 Loadコマンド 9
- M**
 Max Gainコマンド 12
- N**
 New Projectコマンド 25
 New Sceneコマンド 25
 Newコマンド 7
- O**
 Open Projectコマンド 27
- P**
 Parameter Linkingコマンド 12
 Pasteコマンド 13
 Picture Size 11
 PLL Lock 23
 Polarity 20
 Port Select 14
 Preferences 14
- Q**
 QS1
 QS1とは? 1
 インストール 4
 起動 4
 システムの接続 3
 終了 6
 注意 2
 動作環境 2
 はじめに 1
 QS1に必要な環境 3
 QS1のインストール 4
 QS1の起動 4
 QS1の終了 6
 Quitコマンド 6
- R**
 Receiveコマンド 28
 Remote Address 23
- S**
 Sampling Freq 23
 Save Projectコマンド 26
 Saveコマンド 8
 Sceneコマンド 16
 Searchコマンド 8
 SWEEP 17
- T**
 Time Codeコマンド 24
 Transmit Sceneコマンド 26
 Transmitコマンド 29
 TRIANGLE 17
- U**
 Updateコマンド 8
- ア**
 アイコン
 シーンアイコンの選択 27
 アイコン表示のバックグラウンド 11
 アドレス 7
- イ**
 イコライザーコマンド 16
- ク**
 グラフィックイコライザー 16
- コ**
 コモンウインドウ 20
 コンピューターシステムの動作環境 2
- シ**
 シーン
 アイコンの選択 27
 新しいプロジェクトの作成 25
 エディット 26
 切り替えの実行 26
 削除 26
 シーン名 26
 シーンアイコンの選択 27
 シーンのエディット 26
 シーン切り替えの実行 26
 シーンの削除 26
 システム
 設定 3
 接続 3
- 周波数曲線 22
- タ**
 タイムコードイベントウインドウ 24
 ダミーデバイス 6
- テ**
 デバイス
 アップデート 8
 アドレスとは? 7
 クローズ 8
 サーチ 8
 情報 10
 セーブ 8
 設定 4
 ダミーデバイス 6
 追加 7
 デバイスとは? 7
 ロード 9
 デバイスウインドウ 11
 デバイスウインドウの表示 11
 デバイスクローズ 8
 デバイス情報 10
 デバイスのアップデート 8
 デバイスのオープン 8
 デバイスのクローズ 8
 デバイスのサーチ 8
 デバイスのセーブ 8
 デバイスのロード 9
- ハ**
 はじめに 1
 ハムキャンセル 12
 パラメトリックイコライザーウインドウ 18
 バルクデータ
 受信 28
 送信 29
 バルクデータの受信 28
- フ**
 フィルターウインドウ 21
 フィルターコマンド 21
 プログラムディスクのバックアップ 2
 プロジェクト 25
 オープン 27
 クローズ 26
 シーンの追加 25
 新規作成 25
 セーブ 26
 プロジェクトとは? 25
 プロジェクトのオープン 27
 プロジェクトのクローズ 26
 プロジェクトのセーブ 26
- マ**
 マスターセレクト
 詳細 30
 設定 14
 マツキントツシュ
 設定 4
 動作環境 2
- ユ**
 ユーティリティ 23
 ユーティリティウインドウ 23
- ヨ**
 用語集 33

サービスについて

■お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品にかんするご質問・ご相談・あるいはアフターサービスについてのお問い合わせは下記のお客様ご相談窓口へおよせください。

■保証書

本機には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめのうえ、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、本機の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

■調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理にさいしては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいい、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

●お客様ご相談窓口：PA製品に対するお問い合わせ窓口

<音響システム事業部 営業部>

東京営業所	☎ 03-5488-5480	〒108	東京都港区高輪2丁目17-11
大阪営業所	☎ 06-647-8359	〒556	大阪市浪速区難波中1-13-17 なんば辻本ニッセイビル
名古屋営業所	☎ 052-232-5744	〒460	名古屋市中区錦1-18-28
九州営業所	☎ 092-412-5556	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社 国内営業課	☎ 053-460-2455	〒430	浜松市中沢町10-1

<国内営業統括本部>

北海道支店L M営業課	☎ 011-512-6113	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台支店L M営業課	☎ 022-222-6146	〒980	仙台市青葉区大町2-2-10
広島支店L M営業課	☎ 082-244-3749	〒730	広島市中区紙屋町1-1-18 ヤマハビル

●ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お預かり窓口

北海道サービスセンター	☎ 011-513-5036	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台サービスセンター	☎ 022-236-0249	〒983	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター 3F
新潟サービスセンター	☎ 025-243-4321	〒950	新潟市万代1-4-8 シルバーポウルビル 2F
首都圏サービスセンター	☎ 044-434-3100	〒211	川崎市中原区木月1184
浜松サービスセンター	☎ 053-465-6711	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
名古屋サービスセンター	☎ 052-652-2230	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
大阪サービスセンター	☎ 06-877-5262	〒565	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
四国サービスセンター	☎ 0878-22-3045	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内
広島サービスセンター	☎ 082-874-3787	〒731-01	広島市安佐南区西原6-14-14
九州サービスセンター	☎ 092-474-2134	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社/カスタマーサービス部	☎ 053-465-1158	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内

※ 1994年3月4日現在

※ 所在地・電話番号などは変更されることがあります。



4 960693 063279

VR65780 R0 1 • 1 IP 94 04 100 CR

ヤマハ株式会社

音響システム事業部 営業部 ☎ 053-460-2455

〒430 浜松市中沢町10-1